



ほ場整備事業を契機とした農地集積に水土里情報を活用した事例を紹介します。

(1/2)

今回紹介する団体：水土里ネット愛西、滋賀県
水土里ネット滋賀

取組概要

内容：滋賀県彦根市(水土里ネット愛西の管理区域)で実施しているほ場整備事業(事業期間：平成21年～29年)において、事業実施前の農地集積現況図や実施後の農地集積計画図の作成に、水土里情報利活用促進事業で整備した地図情報等を活用。

経緯：①従来、事業実施地区の地図情報及び農地情報は、紙ベースでしか存在しておらず、現況の農地集積の状況把握や事業実施後の農地集積シミュレーションは、手作業による膨大な作業となり、多大な労力が必要だった。
②平成24年1月より、水土里情報利活用促進事業で整備された地図情報及び農地情報を活用することで、迅速かつ的確に農地集積の現況図や集積計画図を作成することが可能となった。

担い手農地集積現況図

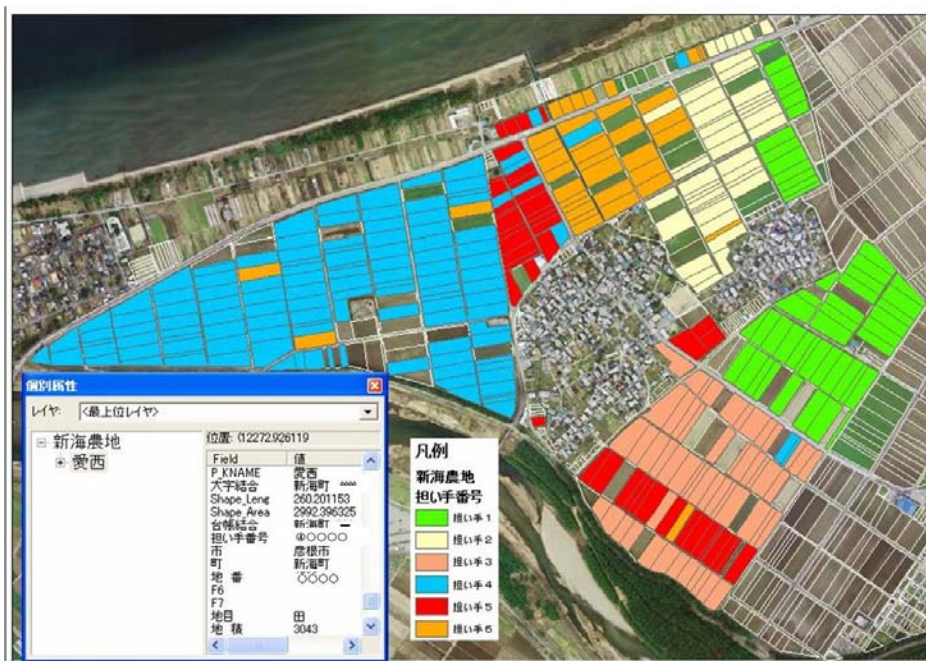


凡 例			
耕作番号	連担番号	作物名	連担番号
A 1	1	水稲	1.00ha
	2	水稲	1.30ha
	3	水稲	1.12ha
A 2	—	—	—
A 3	—	—	—
A 4	4	麦・大豆	3.48ha
	5	水稲	1.81ha
	6	水稲	2.06ha
	7	水稲	1.24ha
	8	水稲	1.98ha
	9	水稲	1.34ha
	10	麦・大豆	2.75ha
	11	麦・大豆	2.42ha
合計			20.50ha

事業実施前の農地集積状況(農地集積率:22%)

期待される効果

水土里情報システムを活用することにより、地図情報等の表示、加工、編集等を自由自在に行うことが可能となり、農地集積をはじめ各種計画の企画立案、調査結果の分析、シミュレーションなど、農業分野の様々な業務の効率化に大きな威力を発揮。



事業実施後の農地集積計画図(目標農地集積率:68%)

今後の活用予定

水土里情報システムを活用することで、農地集積のシミュレーションが迅速かつ容易に実施可能となるため、「人・農地プラン」の農地集積計画の策定にも本情報を活用する予定。

また、今後は水土里情報利活用促進事業で整備したデータを、管理施設(農業用排水路、農道等)の維持管理、管理施設(分水工等)単位の受益範囲の特定、環境こだわり米の作付範囲の確認等に活用予定。

■お問い合わせ先

滋賀県農政水産部耕地課	企画調整担当	077-528-3943(直通)
滋賀県土地改良事業団体連合会	情報システム課	0748-42-7144(直通)
農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(横田、柳川)		03-6744-2201(直通)